

編修趣意書

教育基本法との対照表

※受理番号	学校	教科	種目	学年
30-2	小学校	国語科	書写	第1学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
38 光村	書写 104	しょしゃ 一ねん		

1. 編修の基本方針

「書くことで、つながろう。」

書くことで伝え合う喜び。学んだことが日常に生きていく実感。文字の歴史や書の文化に触れる楽しさ。

「書く」ことは、学校生活や日常生活、友達や地域社会、文字の歴史や文化など、さまざまなものとの「つながり」を生みだします。書くことで広がる子どもたちの日常に思いを馳せながら、私たちは、この教科書を編修しました。

1 書く楽しさや達成感が感じられる

——「楽しい!」「おもしろい!」が、学ぶ意欲を高めます。

文字を書く楽しさや喜びを体感できるように、児童が主体的に取り組める言語活動を提示しました。また、学習の前後での自己の変容を実感することで、達成感が感じられるように、学習内容を焦点化し、「何を学ぶのか」「何ができるようになったのか」が明確に分かる構成としました。

2 「書く力」が、無理なく身につく

——「文字を上手に書きたい」という、児童の願いに応えます。

すべての学習要素を効果的に学習できるように、書写要素を精選し、6年間で無理なく身につけられるよう、発達段階に応じて段階的・系統的に教材を配列しました。また、児童が主体的に課題発見・課題解決ができるように学習の流れを明確にし、場面や状況に応じて適切に書く能力を育むことをめざしました。

3 学んだことが、日常に生きる

——「書写は何に生かせるのだろうか?」という疑問に答えます。

児童が必然性をもって学習できるよう、日常生活とのつながりを実感できるような学習活動を設定しました。さらに、書写で身につけた力が国語科や他教科、日常生活でも生きて働くよう教材化を工夫し、書写で学習したことを実感できる構成にしました。



1

書く楽しさや達成感が感じられる

——「楽しい!」「おもしろい!」が、学ぶ意欲を高めます。

主体的に取り組める言語活動を提示しました。

低学年を中心に、なぞり書きや空書きなど、体感を通して理解を深める教材を積極的に取り入れました。思わずやってみたくなる、体を動かしてみたくなる。そんな活動がいっぱいです。

キャラクターの動きや擬態語・擬音語を活用して、直感的に筆使いを理解することができます。

「とめ」と「はらい」と「はね」

「く」と「はらう」と「はね」

文字を指でなぞって筆使いを確認する教材。児童の指にフィットするなぞり書き用の文字を作りました。

p.10-11 「『とめ』と『はらい』と『はね』」

学習内容を焦点化し、達成感の得られる構成としました。

教材単位で学習が完結する、1教材1単元構成を採用。「何を学ぶか」「何ができるようになったか」が分かりやすいよう、教材名＝書写の学習要素とし、全教材の末尾に自己評価欄（第1学年は「できたかな」／第2学年以上は「ふり返ろう」）を設けました。「書けた!」「書き方が分かった!」という達成感が、学習への意欲をさらに高めます。

「文字のおもしろさ」を感じられる教材が豊富です。

文字への興味・関心が高まるよう、漢字の成り立ちを楽しいイラストで解説する「漢字図鑑」を全学年に位置づけました。発達段階に応じて、低学年では象形文字、中学年では指事文字・会意文字、高学年では会意文字・形声文字を取り上げています。

かん字 ずかん

むかしのかん字

p.37 「かん字 ずかん」

2

「書く力」が、無理なく身につく

— 「文字を上手に書きたい」という、児童の願いに応えます。

何を学ぶかが、ひと目で分かる構成にしました。

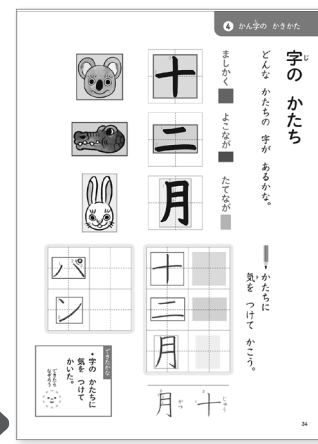
各教材を、見開きまたは1ページ構成とし、シンプルで分かりやすい紙面を実現しました。スモールステップを積み重ねることで、着実に基礎・基本を身につけることができます。



p.28-29 「『とめ』『はね』『はらい』」

具体的な内容(筆使いなど)から抽象的内容(外形など)へと、段階的に教材を配列しました。

いちばん大事なことを大きく、その他の事例は小さく扱うなど、情報に軽重をつけました。



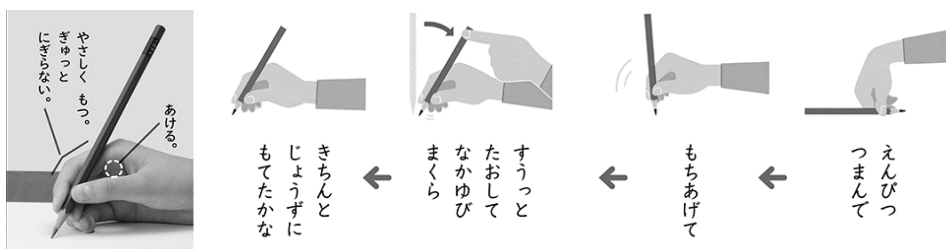
p.34 「字のかたち」

姿勢・筆記具の持ち方を、繰り返し確認することができます。

各学年の巻頭に、姿勢と筆記具の持ち方を確認する場を設け、繰り返し定着を図れるよう工夫しました。特に、硬筆の入門期である第1学年には十分な時数を配当し、入念に確認できるよう配慮しました。



p.4-5 「じをかくしせい」



p.6-7 「えんぴつのもちかた」

姿勢や筆記具の持ち方のポイントを確認する「唱歌」を作成しました。

3

学んだことが、日常に生きる

——「書写は何に生かせるのだろうか？」という疑問に答えます。

日常とのつながりが実感できる教材を設定しました。



児童が書写学習に親しみをもち、文字を書く意欲を喚起できるよう、教材として提示する語句や文章は、児童の日常生活や他教科の学習内容から幅広く取り上げました。

[日常生活から]



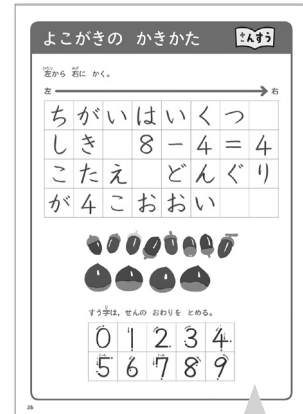
(巻頭ページ)

児童にとっていちばん身近な「名前」を題材に選びました。



p.39「かきぞめ」

[他教科の学習内容から]



p.35
「よこがきの
かきかた」

書写での学習を他教科に生かす橋渡しとなる教材を、各学年に設けました。

国語教科書と連動させて学習することができます。

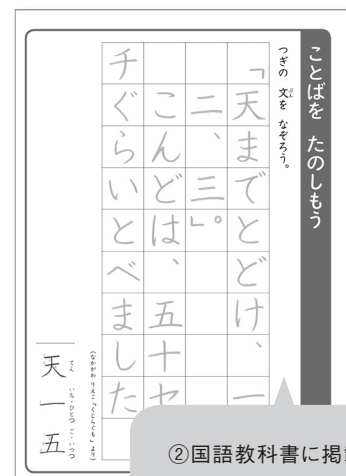


国語教科書と連動できる教材を、各学年に二つ設定しました。国語と一体的に扱うことで、学習活動に必然性が生まれ、単元全体の配当時数にも余裕が生まれます。



p.16-17
「すきなもの、なかに」

①国語教科書と学習内容・題材・学習時期が一致した教材です。書写ならではの書き方のポイントを付しました。



p.36
「ことばを
たのしもう」

②国語教科書に掲載されている物語や短歌・俳句を、書いて味わう教材です。

2. 対照表

[第 1 学 年]

図書の構成・内容		特に意を用いた点や特色	該当頁
巻頭		書写学習によって幅広い知識と教養を身につけるために、知的好奇心を刺激し、興味・関心をもって学習できるよう、児童が身近に感じる自分の名前を書く教材を設定した。【第一号】	表2-1
しよしゃ たいそう		書写が身体を使って書く技能学習でもあることを意識できるよう、学習のはじめに書写体操を導入した。全教科の学習にも通じる柔軟体操であり、健やかな身体を養うことができるよう配慮した。【第一号】	2-3
はじめに	じを かく しせい	正しい姿勢を身につけ、鉛筆の正しい持ち方と動かし方を習得することにより、文字を書くことの喜びや楽しさを体感し、豊かな情操を培うとともに、健やかな身体を養うことができるよう配慮した。【第一号】 全編を通して男女の平等に配慮し、写真やイラスト等に学習上の偏りがないように留意した。【第三号】	4-5
	えんぴつの もちかた／ ての うごかしかた		6-9
ひらがなの かきかた	「とめ」と「はらい」と「はね」	主体的な学習活動を通して、判断力や真理を求める態度を養えるよう、各教材のリード文は児童自らが考え課題発見できるような表現にした。【第一号】 日常生活とのつながりを実感できるイラストを随所に設定するとともに、児童それぞれにさまざまな気付きがあることを知り、また、友達どうして学習内容を確認したり学習成果を認め合ったりしてお互いを尊重しながら創造性を養うことができるよう、構成にも配慮した。【第二号】	10-11
	「まがり」と「おれ」		12-13
	「むすび」		14
	かきじゅん		15
	すきな もの、なかに	硬筆教材の言葉は、書写の学習要素を押さえるとともに、児童の豊かな情操を培い、道徳心や健やかな身体の育成につながるよう、選定に配慮した。【第一号】	16-17
	にて いる ひらがな	課題解決への示唆として、キャラクターを配し、吹き出しを用いて示すなど、児童一人ひとりの個性を尊重し、個々に応じた学習の拡充が図れるような教材を設定した。【第二号】	18
	じの かたち	学習活動を活性化させるイラストや教材文字の題材に、児童の身近な動物や自然を取り入れることにより、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養えるよう配慮した。【第四号】	19
	ひらがな あつまれ	日本語の表記上、主要な役割である「ひらがな」を一覧して学習し、文字を正しく整えて書くことで、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう配慮した。【第三号】	20-21
	できて いるかな	男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うために、学習をサポートするイラストにおいては、男女の平等や役割に配慮した。【第三号】	22
	よこがきの かきかた	公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うために、児童の日常に活かせる横書きに配慮した。【第三号】	23
かたかなの かきかた	かたかなの かきかた	片仮名の学習により、我が国が他国から取り入れた言語文化に関心をもてるよう配慮した。【第五号】 日本語の表記上、主要な役割である「かたかな」を一覧して学習し、文字を正しく整えて書くことで、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう配慮した。【第三号】	24-25
	かたかな あつまれ		26-27
かん字の かきかた	「とめ」「はね」「はらい」	主体的な学習活動を通して、判断力や真理を求める態度を養えるよう、各教材のリード文は児童自らが考え課題発見できるような表現にした。【第一号】 日常生活とのつながりを実感できるイラストを随所に設定するとともに、児童それぞれにさまざまな気付きがあることを知り、また、友達どうして学習内容を確認したり学習成果を認め合ったりしてお互いを尊重しながら創造性を養うことができるよう、構成にも配慮した。【第二号】	28-29
	「おれ」「まがり」「そり」		30
	かきじゅん		31
	にて いる かん字と かたかな	課題解決への示唆として、キャラクターを配し、吹き出しを用いて示すなど、児童一人ひとりの個性を尊重し、個々に応じた学習の拡充が図れるような教材を設定した。【第二号】	32-33
	字の かたち	学習活動を活性化させるイラストや教材文字の題材に、児童の身近な動物や自然を取り入れることにより、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養えるよう配慮した。【第四号】	34
	よこがきの かきかた	公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うために、児童の日常に活かせる横書きに配慮した。【第三号】	35
まとめ	かきぞめ／一年生の まとめ	書き初め教材を設定することで、伝統と文化を尊重し我が国と郷土を愛することについて児童が意識をもてるよう配慮した。【第五号】	38-39, 40-41
	空に 大きく かこう	空書きや水筆での活動を取り入れることにより、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培う態度を養うよう配慮した。【第二号】	44
	水ふでで かいて みよう		45
しりょう	一年生で ならう かん字 (80字)	主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう、第1学年で学習する漢字とその書き順を一覧にまとめ、文字を正しく整えて書くことができるよう配慮した。【第三号】	42-43

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

すべての児童にとって使いやすく、わかりやすい教科書を実現しました。

- 特別支援教育の専門家から校閲を受け、情報を精選し、大切なことがひと目で分かる、すっきりとしたレイアウトを実現しました。
- カラーユニバーサルデザインの専門家から校閲を受け、文字や図表などに複数の色を用いるときは、だれもが明確に識別できる色の組み合わせになるよう配慮しました。
- 単元名・教材名や、「たいせつ」には、読みやすさと見やすさを追求したユニバーサルデザイン書体を用いました。

編修趣意書

学習指導要領との対照表、配当授業時数表

※受理番号	学校	教科	種目	学年
30-2	小学校	国語科	書写	第1学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
38 光村	書写 104	しよしゃ 一ねん		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

1 体感的、直感的に理解できる。

—— 児童が思わず体を動かしたくなる教科書をめざしました。

なぞり書きや空書きなど、「体で覚える」教材を随所に設けました。

【なぞり書き】

体験を通して理解を深められるよう、指でなぞって筆使いを確認する活動を随所に位置づけました。また、キャラクターの動きで直感的に「とめ」や「はらい」の書き方を理解することができます。

【空書き】

第1・3・5学年の巻末に、腕を大きく動かしてダイナミックに文字を書く「空に大きく書こう」を設けました。書くことの喜びや楽しさを存分に味わう体験を通して、学習に向かう意欲を高めます。



【動物キャラクター】
筆使いや運筆のリズムを体の動きで表現します。

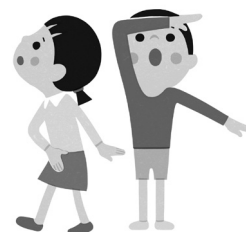


p.28 「とめ」「はね」「はらい」



p.44 「空に大きくかこう」

【子どもキャラクター】
児童とともに成長し、課題解決や着想のヒントを与えます。



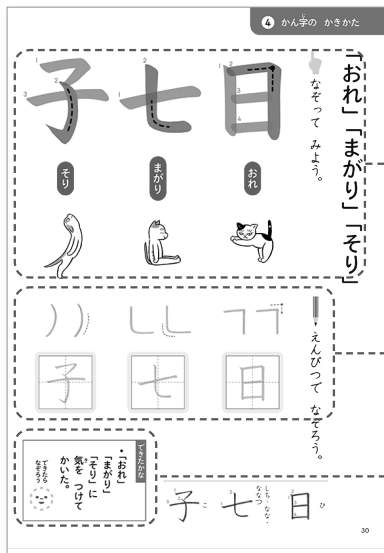
2

学習の流れが、分かりやすい。

— 「学びやすい、教えやすい教科書」をめざしました。

「文字の整え方」を学び、日常に生かすことができる構成です。

各教材は、課題解決型学習を想定して構成しました。課題発見から解決までのプロセスを通して、書写の原理・原則を主体的に学び取ると同時に、思考力・判断力・表現力を養えるよう配慮しました。



p.30「『おれ』『まがり』『そり』」

1 導入・理解

観察や比較を通して、原理・原則を発見し、確認する。
[教材名・課題]

2 確認

書いて原理・原則を確かめ、技能を習得する。

3 活用

日常の文字に生かす手がかりとする。
[できたかな]

文字の整え方を学び、いろいろな文字に応用できる「書く力」を育みます。



3

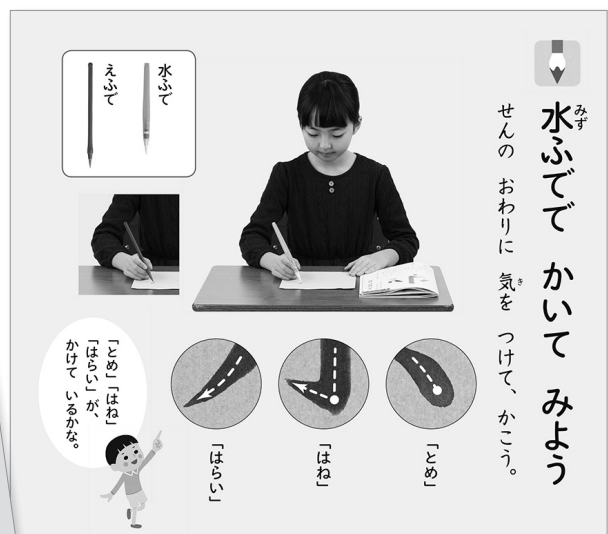
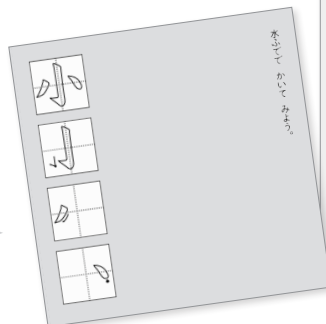
「水ふでで書いてみよう」の新設。

— 「とめ・はね・はらい」を、何度でも体感することができます。

新学習指導要領の「点画の書き方」に対応しています。

第1・2学年に「水ふでで書いてみよう」を新設し、水書用筆等で書く活動を取り入れました。第1学年では、おもに終筆(とめ・はね・はらい)の筆使いを、第2学年では、始筆から終筆までの筆使いを繰り返し練習することで、書く力が飛躍的に向上します。第1学年の巻末には、「水書シート」を用意しました。

第1学年の巻末に、「水書シート」を用意しました。



p.45「水ふでで書いてみよう」

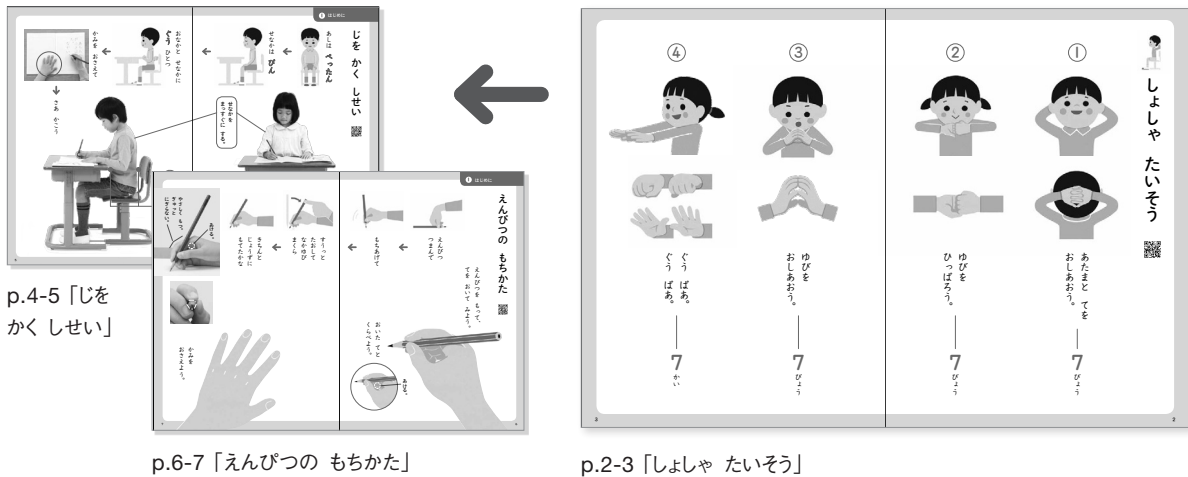
4

「しよしゃ たいそう」で、書くための体をつくる。

—— 正しい姿勢・筆記具の持ち方を実現する体づくりのために。

第1・2学年の巻頭ページに、「書写体操」を位置づけました。

全教科の基礎である姿勢・筆記具の持ち方が学習習慣として定着するよう、スポーツ科学の専門家の監修による「書写体操」を作りました。まずは、正しい姿勢・執筆を実現するための体づくりから、書写の授業が始まります。



p.4-5 「じをかくしせい」

p.6-7 「えんぴつのもちかた」

p.2-3 「しよしゃ たいそう」

5

その他のポイント

—— すべての児童にとって使いやすく、分かりやすい教科書のために。

理解がぐっと深まる 豊富な動画資料を用意しました。

教科書紙面に「二次元コード」がある教材では、スマートフォンやタブレットを使って、筆使いを確かめる動画などのさまざまな資料を見ることができます。



動画「ての うごかしかた」

特別支援教育の観点から、専門家の指導・校閲を受けました。

- 特別支援教育の専門家による全ページの校閲を受け、情報を精選し、大切なことがひと目で分かる、すっきりとしたレイアウトを実現しました。特別に支援が必要な児童にとっても、混乱が生じにくく学びやすい紙面です。
- カラーユニバーサルデザインの専門家による厳しい校閲を受け、文字や図表などに複数の色を用いるときは、だれもが明確に識別できる色の組み合わせになるよう配慮しました。
- 読みやすさを考慮して独自に開発した、オリジナルの教科書体を使用しています。
- 単元名・教材名や、「たいせつ」には、読みやすさと見やすさを追求したユニバーサルデザイン書体を用いました。



教科書体



UD書体
(ユニバーサルデザイン)



手書き文字

教科書の特徴

[第 1 学年]

教育基本法の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・書写の学習を通して幅広い知識・教養を身につけるとともに、書写で培った「正しく整えて文字を書く力」を他教科や日常の言語生活で生かす態度を育成できるよう配慮しました。 ・知識・技能を習得し、課題解決を行う過程で、「思考力・判断力・表現力」や「学びに向かう力」など、「生きる力」を支える能力を養えるよう配慮しました。
学習指導要領の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示された「我が国の言語文化に関する事項」の「書写」の指導を全て網羅できるように単元・教材を作成しました。 ・点画の書き方を繰り返し練習し、適切に運筆する能力を向上させる教材として、「水筆で書いてみよう」(p.45)を設け、巻末に「水書シート」を用意しました。
内容と系統	<ul style="list-style-type: none"> ・低・中・高の各学年段階で求められる「書く力」を確実に身につけられるよう、基礎的・基本的な知識・技能を系統的に位置づけ、習得と活用を繰り返しながら螺旋的に高められるよう工夫しました。
配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> ・1教材1目標とし、その教材で扱う要素を焦点化することで、学習のねらいが明確になり、効果的に力をつけられるよう配慮しました。 ・各教材は、①導入・理解（原理・原則の発見）→②確認（書いて原理・原則を確かめる）→③活用（日常の文字に生かす・振り返り）という展開が、ひと目で分かる構成にしました。
主体的・対話的で深い学びへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習に取り組めるよう、なぞり書きや空書きなど、体感を通して理解を深める教材を積極的に取り入れました。 ・鉛筆の持ち方を友達どうしで確かめる「できているかな」(p.22)を設定するなど、対話を通して学習を深められるよう配慮しました。
教材の選定	<ul style="list-style-type: none"> ・硬筆教材には、学習指導要領の「学年別漢字配当表」に準拠しつつ、部分の形の統一が図られた、小学生にとって学びやすい文字を採用しました。書写の基礎・基本を押さえるのに適しているだけでなく、「国語科書写」として、児童の感性を高められるすぐれた言葉や文章を選びました。
伝統・文化の取り上げ方	<ul style="list-style-type: none"> ・書き初めや、漢字の成り立ちをコラムで掲示するなど、伝統的な言語文化への理解を深められるよう配慮しました。 ・国語教科書に掲載された物語や短歌・俳句のなぞり書き教材として、「言葉を楽しもう」を全学年に位置づけました。
幼・保・小の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭ページには、児童が身近に感じる自分の名前を書く活動を位置づけました。児童が生き生きと活動するイラストから、書写学習への意欲を高められるよう配慮しました。
他教科や実生活との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年に国語との関連教材を2か所設け、言語活動（話すこと・聞くこと／書くこと）を通して、日常生活に生きて働く書写の知識・技能を習得できるよう工夫しました。 ・生活科や算数との関連教材を設け、教科横断的な学習が充実するよう配慮しました。
道徳との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年に書き初め教材を設置し、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するための素地を培えるよう配慮しました。 ・「できているかな」(p.22)では、他者から学ぼうとする道徳的態度を育成できるよう配慮しました。
家庭や地域社会との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書紙面に「二次元コード」がある教材には、学習の参考となる豊富な動画資料を用意しました。スマートフォンやタブレットを使って資料を見ることで、家庭でも、豊かな文字文化について語り合うことができるよう工夫しました。
特別支援教育・ユニバーサルデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての児童が学習に集中できるよう、大切なことがひと目でわかる、すっきりとした紙面構成を実現しました。 ・複数の色を組み合わせるときには、色覚の多様性に配慮し、誰もが識別できる配色を採用しました。
文字・印刷・製本	<ul style="list-style-type: none"> ・環境への配慮から、再生紙・植物油インキを用いています。 ・強度が高く、鉛筆で書きやすい用紙を開発し、採用しました。 ・針金を3か所に施した中綴じ製本で、長期の使用に耐えられるよう配慮しました。

2. 対照表

[第 1 学年]

図書の構成・内容	学習指導要領の内容			該当頁	配 当 時 数	
	【知識及び技能】		その他の指導事項			
	(3) ウの事項	(1) の事項				
巻頭	(イ)			表2-1	適宜	
しよしゃ たいそう	(ア)			2-3	適宜	
① はじめに	じを かく しせい	(ア)		4-5	2～3	
	えんぴつの もちかた／ての うごかしかた	(ア)		6-9		
② ひらがなの かきかた	「とめ」と「はらい」と「はね」	(イ)	ウ		10-11	2
	「まがり」と「おれ」	(イ)	ウ		12-13	2
	「むすび」	(イ)	ウ		14	2
	かきじゅん	(イ)	ウ		15	1
	すきな もの, なあに <こくご>	(イ)	ウ	B(1) ウ・エ (2) イ	16-17	2
	にて いる ひらがな	(イ)	ウ		18	2～3
	じの かたち	(イ)	ウ		19	
	ひらがな あつまれ	(イ)	ウ		20-21	1
	できて いるかな	(ア)			22	適宜
よこがきの かきかた <せいかつ>	(イ)	ウ	B(1) ウ・エ (2) ア	23	適宜	
③ かたかなの かきかた	かたかなの かきかた	(イ)	ウ		24-25	2
	かたかな あつまれ	(イ)	ウ		26-27	適宜
④ かん字の かきかた	「とめ」「はね」「はらい」	(イ)	エ		28-29	2
	「おれ」「まがり」「そり」	(イ)	エ		30	2
	かきじゅん	(イ)	ウ・エ		31	1
	にて いる かん字と かたかな	(イ)・(ウ)	ウ・エ		32-33	2～3
	字の かたち	(イ)	ウ・エ		34	
	よこがきの かきかた <さんすう>	(イ)	ウ	B(1) ウ・エ (2) ア	35	適宜
ことばを たのしもう <こくご>/かん字 ずかん	(イ)	ウ・エ		36-37	1/適宜	
⑤ まとめ	かきぞめ	(ア)・(イ)・(ウ)	ウ・エ		38-39	4～5
	一年生の まとめ	(ア)・(イ)・(ウ)	ウ・エ	B(1) ウ・エ (2) ア	40-41	2～3
	空に 大きく かこう	(イ)	エ		44	適宜
	水ふでで かいて みよう	(イ)	ウ・エ	内容の取扱い カ(エ)	45	
しりょう	一年生で ならう かん字 (80字)	(イ)・(ウ)	エ		42-43	適宜
					合計時数	30～35